

「サテライトラボ上尾におけるサービスラーニングと社会実装教育の実践-ウェルビーイングまちづくりの実証実験-」プロジェクト

代表者	作山 康【教授】(システム理工学部 環境システム学科)
構成員	松下希和(システム理工学部 環境システム学科)／水谷晃啓(システム理工学部 環境システム学科)／中村仁(システム理工学部 環境システム学科)／増田幸宏(システム理工学部 環境システム学科)

■プロジェクトの概要

環境システム学科2年専門科目環境フィールド実習、都市計画演習において地域の課題解決提案とその社会実装を企画実施している。また、本年度より上尾高校2年生全員を対象とした「総合探究」のフィールドの一つとして活用する準備をしており、公立高校との高大連携の新たな教育研究機会にもなる。

2023年3月に上尾市と包括連携協定を締結し、大学の技術・人材の登用とともに、上尾市と連携強化した協働の実証実験や上尾市全体の課題解決に向けた取り組みを強化すべくサテライトラボ上尾を将来、公民学連携のまちづくり拠点「上尾市アーバンデザインセンター」としてステップアップする準備を進めている。

■地域志向(COC)活動助成プロジェクトの成果

【教育】

都市計画・まちづくり系の大学院の演習科目、学部の演習科目では、従来から特定の地域を対象として地域の課題を把握し、その課題への対応を提案するというPBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)の計画・設計演習を実施した。COC事業を受けて、地域との連携をより強化した教育プログラムに発展させ、学生の教育効果をさらに高めている。

2015年度から演習等の提案成果を関係団体と連携して実証実験を行っている。

【研究】

学外の地域活動拠点をベースとする卒業論文、修士論文の研究を通じて、地域の課題である「超高齢化に対応した都市環境の形成、地域の安全性の向上、低負荷環境の創出、経済力の維持・向上」およびその実現のための「多様な主体の協働による都市・地域計画システムの創出」に関する先進的かつ実践的な研究を行い、実社会に役立つための研究成果を提案としてまとめている。2025年度は学術団体論文研究発表会(都市環境デザイン会議)において、「eスポーツによる健康増進と多世代の交流に関する研究」優秀賞を受賞した。

【社会貢献】

演習や卒業論文、修士論文の成果を、広く地域に還元している。2025年度は、地元自治会や社会福祉協議会と連携して各プロジェクトの進行中に創意工夫の改善を行い、地元と協働による課題解決のサービスラーニングとしての成果が見えている。

学外に地域活動の拠点を設け、地域住民をはじめ多様な主体が活用・交流する場となっており、ラボや学生たちの活動が契機となり行政や民間、市民団体等の活動を触発し、連携しながら地域の課題解決に向けた取り組みが展開している。



環境フィールド実習にて「多世代交流とみんなの居場所イベント」の実装教育



研究論文発表での優秀賞受賞の様子



敬老の日・原市カフェイベントは毎年地元高齢者等に好評

主なトピックス

サテライトラボ上尾の新たな展開可能性

11年間活動実績のある学外教育研究機関で、2階を無料DIY室やみんなの居場所として新たな課題解決の社会実験を展開中であるとともに、次年度はさらに上尾市との連携強化を図るべく「上尾市アーバンデザインセンター」の認定に向けた地域連携強化を図る準備を行なっている。



サテライトラボ上尾での論文発表会の風景2025年は7題の研究発表が行われ地元や関係団体が参加した

■ 高大連携プロジェクト

県立上尾高校との高大連携授業では、高校2年生全生徒を対象に「ウェルビーイングまちづくりと地域貢献」を講義し、そのうちサテライトラボ上尾の活動に興味を持った7名の生徒がイベントに参画。高校生優秀者研究発表会を作山ゼミで行うなど高大連携の新たな取り組みを実施した。



シルバーeスポーツ高校生も参加して多世代交流の可能性が発見され、eスポーツの新たな展開の研究が発見できた

■ 年々注目されている団地内教育研究機関

UR都市機構広報誌「URPRESS vol.83」にて活動が紹介



左：1階の1階、本郷の前のテラスコートも、くわりの回廊です。

右：2階の2階への階段はウッドデッキの階段とガラスのペンキでオシャレに仕上げ、上尾を自由に使えるテラスコートです。



上：赤上、つみみでデザイナーガーデンでブルーベリーの実を収穫する山崎さん。ブルーベリーはスノーピークにて暮らす学生が収穫。

下：貴族会長の藤田さん。



19号（9階）11号管理棟（19号管理棟、科楽施設外付ビル）ペーターの設置などを実施している。

「団地は日本の縮図。団地の課題は、今後の日本の課題でもあります。私たちの大学は、社会に貢献する人材の教育を理念に掲げています。団地内には地域の人と教育の場、学生たちは地域の人と教育の場、現場で課題を見つけ、その解決方法を考えます。答えがひとつではないなか、採用される機会を捉え、実践する即戦力を養う、社会に役立つことを目指すことで、学生は成長します。それが可能なのは、学生の提案を自治会の方が真摯に受け止めてくれて、調査・研究に協力してくれる信頼関係が築けてきたことと、芝浦工業大学が共に取り組んでいることだ。」

「団地は日本の縮図。団地の課題は、今後の日本の課題でもあります。私たちの大学は、社会に貢献する人材の教育を理念に掲げています。団地内には地域の人と教育の場、学生たちは地域の人と教育の場、現場で課題を見つけ、その解決方法を考えます。答えがひとつではないなか、採用される機会を捉え、実践する即戦力を養う、社会に役立つことを目指すことで、学生は成長します。それが可能なのは、学生の提案を自治会の方が真摯に受け止めてくれて、調査・研究に協力してくれる信頼関係が築けてきたことと、芝浦工業大学が共に取り組んでいることだ。」

「団地は日本の縮図。団地の課題は、今後の日本の課題でもあります。私たちの大学は、社会に貢献する人材の教育を理念に掲げています。団地内には地域の人と教育の場、学生たちは地域の人と教育の場、現場で課題を見つけ、その解決方法を考えます。答えがひとつではないなか、採用される機会を捉え、実践する即戦力を養う、社会に役立つことを目指すことで、学生は成長します。それが可能なのは、学生の提案を自治会の方が真摯に受け止めてくれて、調査・研究に協力してくれる信頼関係が築けてきたことと、芝浦工業大学が共に取り組んでいることだ。」



「団地は日本の縮図。団地の課題は、今後の日本の課題でもあります。私たちの大学は、社会に貢献する人材の教育を理念に掲げています。団地内には地域の人と教育の場、学生たちは地域の人と教育の場、現場で課題を見つけ、その解決方法を考えます。答えがひとつではないなか、採用される機会を捉え、実践する即戦力を養う、社会に役立つことを目指すことで、学生は成長します。それが可能なのは、学生の提案を自治会の方が真摯に受け止めてくれて、調査・研究に協力してくれる信頼関係が築けてきたことと、芝浦工業大学が共に取り組んでいることだ。」

「団地は日本の縮図。団地の課題は、今後の日本の課題でもあります。私たちの大学は、社会に貢献する人材の教育を理念に掲げています。団地内には地域の人と教育の場、学生たちは地域の人と教育の場、現場で課題を見つけ、その解決方法を考えます。答えがひとつではないなか、採用される機会を捉え、実践する即戦力を養う、社会に役立つことを目指すことで、学生は成長します。それが可能なのは、学生の提案を自治会の方が真摯に受け止めてくれて、調査・研究に協力してくれる信頼関係が築けてきたことと、芝浦工業大学が共に取り組んでいることだ。」